

科技高 いきもの記

Vol.35 2021.8.25

佐藤龍平

何種類見たことある？

江東区のセミ5種



ツクツクボウシの抜け殻

よく見るアブラゼミなどの抜け殻と違って、かなり細く、色も薄い。

猿江公園のアカメガシワにとまるツクツクボウシ *Meimuna opalifera*
体色や翅の色合いはミンミンゼミに似るが、ツクツクボウシの方が小さく、細長い。翅端まで約45mm。猿江公園では個体数は多くない。夏の終わり頃（ちょうど今頃）に発生し始める。



夕方、木を登る幼虫（おそらくアブラゼミ）
7月～8月の夕暮れ時には、たくさんの幼虫が地中から出てくる。

ミンミンゼミ

Hyalessa maculaticollis

からだは緑で丸っこく、翅は透明。東日本に多い。翅端まで約60mmで、サイズはアブラゼミとほとんど同じくらい。

アブラゼミ

Graptopsaltria nigrofusca

この辺りでは最も多い。1本の木に10匹以上止まっていることもある。「ジリリリ…」と鳴く。名前の由来は、油で揚げる音に似ているから、油に濡れた紙（油紙）に色が似ているから、など諸説あるが、あまり納得できない。

「あなたの街で一番聞こえるセミの声は？」という質問をすると、東京では過半数以上の人々が「ミンミンゼミ」と答えるのだそう（※）。たしかにミンミン…という、生物が発する音としてはかなり特徴のある鳴き声はとても印象的なので、この結果は頷ける。

一番印象に残るのはミンミンゼミだが、この辺りで“一番個体数が多い”のは「アブラゼミ」だ。夏の終わりになれば、その辺にたくさん茶色のセミの死骸が転がっているし、死んでいると思いきや突然動き出すもんだから、「セミファイナル」などと呼ばれ人々に恐れられていたりもする。アブラゼミは数がとても多いのに、ジリリリ…という鳴き声が割と地味で、BGMのように溶け込んでしまうのであまり目立たない。

同じような話は他のセミにも言える。「ツクツクボウシ」の名を知らない人はいないと思う。あの奇妙な鳴き声は、本当に虫の声なのか？！と疑いたくなる完成度だ。特徴的な鳴き声なので超有名セミだが、この辺りの個体数は多くはなく、おそらく姿を見たことがある人は少ないと思う。1匹いれば鳴き声のおかげでかなりの存在感があるが、その声の主が細長くて華奢な美しいセミであることを多くの人は知らない。

もっと認知度が低いのが、「ニイニゼミ」だ。こいつに至っては見た目はおろか、鳴き声も知らない人が多い。「ジー…」と切れ目のない声が響くのだが、地味すぎて誰も気に留めない。出現も6月の梅雨頃で比較的早く、きつとセミの声とすら思われていない。小さくて頭が角ばる特徴的な姿が面白いセミだ。

最後に紹介したいのは「クマゼミ」だ。クマゼミは、もともと東京にいなかった南方種なのだが、近年、温暖化の影響で生息域を北へ拡大している。私が子供の頃は憧れのセミだった。旅行で四国に行った時、着いた途端に「シャアシャア…」というクマゼミの鳴き声が聞こえてきて、いたく感動したのを覚えている。それが今ではすっかり東京にも定着し、午前中にけたたましく鳴く声が聞こえてくる。

以上が江東区で見られるセミたちだ。ちなみに、冒頭のアンケートは、西日本で行うと「アブラゼミ」や「クマゼミ」という回答が多くなるらしい。関東以南ではミンミンゼミがあまり分布しておらず、西日本では馴染みがないようだ。国内で南方種、北方種の分布差が見られるのは、縦に長い日本列島ならではの。そろそろ、セミの季節も終わりだ。近くでどんな鳴き声が聞こえてくるか、改めて耳を傾けてみてほしい。



ニイニゼミの幼虫

小さくて丸っこい。なぜニイニゼミの幼虫だけが泥まみれなのかはよく分かっていないらしい。木の根元付近で羽化する。

ニイニゼミ

Platyleura kaempferi

頭部が横に広がった独特な形をしている。翅端まで約35mmで、5種の中で最小。梅雨明け～初夏に真っ先に出現し、「ジー…」と鳴く。



※写真は与那国島産。東京のものは腹部の白帯が無い。

クマゼミ *Cryptotympana facialis*

翅端まで約65mmで日本最大級のセミ。頭部が黒くてごつい。南方系の種で西日本に多いが、近年東京でも普通に見られるようになった。午前中、木の高い位置で「シャアシャアシャア…」と鳴く。